

平成23年6月定例会
農 林 水 産 委 員 会
(所管事項関係)

提 出 資 料

平成23年6月21日
農 林 水 産 部

目 次

- 1 平成22年決算特別委員会において「検討する」旨
答弁した事項の検討状況について [農林水産部] ----- 1
- 2 農林水産業及び農山漁村に関する年次報告について [農林政策課] ----- 2
- 3 秋田米プロモーション事業の実施について
(秋田型バリューマーケティング戦略推進事業) [流通販売課] (当日配布)
- 4 “2011国際森林年” 関連行事について [森林整備課] ----- 4

1 平成22年決算特別委員会において「検討する」旨 答弁した事項の検討状況について

農林水産部

「検討する」旨の答弁を行った事項	その後の検討状況
<p>農地流動化の推進に当たり、贈与税の納税猶予制度が適用される農地について、売り渡しや貸付をした場合、納税猶予が打ち切られることになることから、現場での課題について、実態を把握して対応を検討する。</p> <p>(農林政策課)</p>	<p>ほ場整備事業実施地区及び完了地区を対象にしたアンケート調査では、「税制上の制約を理解していなかった」などの回答があったことから、引き続き、農地税制の周知を図るとともに、農業委員会と連携の上、納税猶予を継続することができる農作業受委託の手法を活用するなど、個々の実情に応じたアドバイスを行う。</p>
<p>グリーン・ツーリズム関係の体験型旅行商品などを売り出せるか検討する。</p> <p>(農山村振興課)</p>	<p>農家民宿・レストランでの農作業・食体験などを盛り込んだグリーン・ツーリズム旅行企画を県内6地域で実施した。</p> <p>平成24年度までの3カ年で地域ビジネスとして実施可能かどうか検証していく予定である。</p>
<p>米の消費拡大を図るため、「GOPAN」の購入に対して補助することは考えられないか検討する。</p> <p>(流通販売課)</p>	<p>「GOPAN」を活用し、新たな米の加工品やメニューづくり等を通じて秋田米の消費拡大を図ろうとする団体に対し、導入経費の一部を助成する制度を23年度事業で創設した。</p> <p>(事業名：「あきた米」販売対策緊急支援事業)</p>

2 農林水産業及び農山漁村に関する年次報告について

農林政策課

平成15年3月に制定された「秋田の農林水産業と農山漁村を元気づける条例」に基づき、平成22年度の農林水産業及び農山漁村の動向並びに農林水産業及び農山漁村の振興に関し、県が講じた施策を報告する。

秋田の農林水産業と農山漁村を元気づける条例

(年次報告)

第8条 知事は、毎年、農林水産業及び農山漁村の動向並びに農林水産業及び農山漁村の振興に関し県が講じた施策を明らかにする報告書を作成し、県議会に提出するとともに、公表しなければならない。

1 農林水産業及び農山漁村の動向（第1部）

(1) 概要

ア 農業分野

- ・ 平成21年の農業産出額は1,759億円（全国20位、東北6位）で、前年より90億円減少した。
- ・ 部門別では、米が1,019億円で前年より73億円の減少、畜産は296億円で前年より6億円の減少、野菜は275億円で前年より3億円の減少となった。
- ・ 平成22年度末現在の認定農業者数は10,122経営体で、前年より81減少したが、平成22年9月1日現在の農業法人数は444法人で、前年より33増加した。

イ 林業分野

- ・ 平成21年の素材生産量は788千 m^3 で、前年より40千 m^3 減少した。樹種別にみると、スギが633千 m^3 で、全体の約80%を占めている。
- ・ 平成21年の木材・木製品の製造品出荷額は、前年より137億円減少の597億円で、県全体の製造品出荷額の5.0%となっている。
- ・ 平成21年度の林業従事者は1,764人で、前年より14人減少したものの、新規参入者は141人で、年々増加している。

ウ 水産業分野

- ・ 平成21年の海面漁業・養殖業生産量は11,492トンで、前年より405トン減少したが、ハタハタ等の種苗放流や資源管理により、近年の漁業生産量は安定傾向にある。
- ・ 平成21年の海面漁業総生産額は、魚価の低迷等により、前年より2億円減少の41億円であった。

エ 農山漁村分野

- ・ 平成21年の中山間地域における農山村と都市住民等の交流参加者数は91,255人で、前年とほぼ同数であった。

(2) トピックス（特徴的な取組や対策等を掲載）

ア 共通分野

- ・ 農林漁業振興臨時対策基金の創設
- ・ TPP（環太平洋経済連携協定）など貿易自由化への動き
- ・ 秋田県の食料自給率
- ・ 研究成果等の広報・PR活動

イ 農業分野

- ・ “秋田で農業を”推進事業
- ・ 平成22年度の自然災害による農林水産被害
- ・ 農業再生委員会の活動
- ・ 農山漁村コミュニティ・ビジネスモデルの実証
- ・ 広がる米粉ビジネス ～飲食店でのオリジナルメニュー開発～
- ・ 首都圏商談会の開催 ～食と観光を連動させた売り込み展開～
- ・ 農業者戸別所得補償制度の概要
- ・ 県オリジナル品種の紹介
- ・ 高原病性鳥インフルエンザの発生状況と本県の防疫対策
- ・ 比内地鶏消費量の拡大に向けた取組
- ・ 統合家畜市場が平成24年4月にオープン
- ・ モミガラ補助暗渠

ウ 林業分野

- ・ 秋田スギラミナの生産拡大への取組
- ・ 間伐によるカーボンオフセットの取組

エ 水産業分野

- ・ 首都圏・関西圏での「県魚ハタハタ」まるごと販路拡大の取組

2 農林水産業及び農山漁村の振興に関し県が講じた施策（第2部）

農林水産業及び農山漁村の振興に関し、県が平成22年度に講じた施策をふるさと秋田元気創造プランをベースに作成した体系に従い掲載。

4 “2011国際森林年” 関連行事について

森林整備課

県民の財産である森林を育み保全していくためには、一人ひとりの県民が具体的に行動することが重要であり、国際森林年を契機として、森林に対する理解が深められるよう、フォーラムや植樹祭を開催する。

1 国際森林年森づくりフォーラム等関連行事

(1) 2011国際森林年森吉山麓植樹活動

- ・開催月日 平成23年7月3日(日)
- ・開催会場 北秋田市「森吉山麓(ノロ川牧場跡地)」
- ・メインテーマ 秋田の森林をつくり、あきたの森を歩こう！
サブテーマ ～クマゲラが棲める森林をつくり、森を歩こう！～
- ・開催内容 ブナの植樹、ブナ林の散策
- ・参加予定者 100人

(2) 2011国際森林年「あきた水と緑の森林祭」

- ・開催月日 平成23年7月9日(土)
- ・開催会場 北秋田市「県立北欧の杜公園」
- ・サブテーマ ～未来につなごう秋田の森林を！～
～がんばろう東北・森林の力で復興を！～
- ・開催内容 下刈活動、表彰、国際森林年PR展示、水と緑の展示・体験等
- ・参加予定者 1,000人

(3) 2011国際森林年森づくりフォーラム

- ・開催月日 平成23年8月6日(土)
- ・開催会場 仙北市「西木温泉クリオン」、瀧前山森林公園
- ・サブテーマ ～みんなで美しい里山づくりを！～
- ・開催内容 講演(東京農業大学教授 宮林茂幸氏)、森林ボランティア報告、下刈活動等
- ・参加予定者 100人

(4) 2011国際森林年海岸林再生植樹祭

- ・開催月日 平成23年10月22日(土)
- ・開催会場 由利本荘市岩城勝手JR林、由利本荘市岩城総合支所
- ・サブテーマ ～よみがえれ岩城の美しい海岸林！～
- ・開催内容 植樹活動、県森林技術センター報告、海岸林ボランティア団体パネルディスカッション(秋田県立大学教授 蒔田明史氏)等

- ・参加予定者 300人

(5) 2011国際森林年森づくり活動

- ・開催月日 平成23年10月29日(土)
- ・開催会場 能代市「木の学校」、八峰町「留山」・「三十釜」等
- ・サブテーマ ～ 水源の森“留山”を、のんびり歩こう！～
- ・開催内容 木工体験、森を歩く活動等
- ・参加予定者 100人

(6) 2011国際森林年森づくりフォーラム … 予定

- ・開催月日 平成23年11月12日(土)
- ・開催会場 秋田市「県児童会館」
- ・サブテーマ ～ 未来に向かって秋田の森林を活かそう！～
- ・開催内容 講演、森づくり活動報告等
- ・参加予定者 500人

2 国際森林年関連啓発事業（「森の働き」啓発事業）

森林の大切さや林業の役割について、総合学習で活用できる副読本を作成する。

- ・副読本 「あきたの森林」
- ・対象者 小学4、5年生（18,000人）
- ・仕様等 B5判、フルカラー、24ページ
- ・主な内容 世界・日本・秋田の森林、県内の森林の紹介、森林の働き
木材になるまで、木材はバイオマスエネルギー、
これから私たちがやるべきこと（森林を未来に引き継ごう）

“国際森林年”とは

国連は、世界で「持続可能な森林管理・利用」という、森林の成長量を超えない範囲で木材を利用していく重要性の認識を高めることを目的に、平成23年（2011年）を国際森林年（International Year of Forests 2011）と決めました。